



「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスの
レポート提供サービスの調達（その3）」
に係る一般競争入札
（最低価格落札方式）

入 札 説 明 書

2026年1月16日

独立行政法人 情報処理推進機構

目 次

I. 入札説明書	1
II. 契約書（案）	6
III. 仕様書	13
IV. その他関連資料	18

I. 入札説明書

独立行政法人情報処理推進機構（以下「機構」という。）の入札公告（2026 年 1 月 16 日付公告）に基づく入札については、関係法令並びに機構会計規程及び同入札心得に定めるもののほか、下記に定めるところによる。

記

1. 競争入札に付する事項

(1) 件名

「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）」

(2) 調達役務の内容等

仕様書記載のとおり。

(3) 履行期限

仕様書記載のとおり。

(4) 入札方法

落札者の決定は最低価格落札方式をもって行うため、

①入札に参加を希望する者（以下「入札者」という。）は「6. (3) 提出書類」に記載の提出書類を提出すること。

②上記①の提出書類のうち、入札書については仕様書及び契約書案に定めるところにより、入札金額を見積もることとする。

なお、入札金額は、総価とする。総価には納入等に係る全ての費用を含むものとする。

③落札者の決定に当たっては、入札書に記載された金額に 10 パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に 1 円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。）をもって落札価格とするので、入札者は消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった金額の 110 分の 100 に相当する金額を記入すること。

④入札者は、提出した入札書の引き換え、変更又は取り消しをすることはできない。

2. 競争参加資格

(1) 予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第 70 条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。

(2) 予決令第 71 条の規定に該当しない者であること。

(3) 令和7・8・9年度競争参加資格（全省庁統一資格）において「役務の提供等」で、「A」、「B」、「C」又は「D」の等級に格付けされ、関東・甲信越地域の資格を有する者であること。

(4) 各省各庁及び政府関係法人等から取引停止又は指名停止処分等を受けていない者（理事長が特に認める場合を含む。）であること。

(5) 経営の状況又は信用度が極度に悪化していないと認められる者であり、適正な契約の履行が確保される者であること。

3. 入札者の義務

(1) 入札者は、入札説明書及び機構入札心得を了知のうえ、入札に参加しなければならない。

(2) 入札者は、機構が交付する仕様書に基づいて、入札書等を提出期限内に提出しなければならない。また、開札日の前日までの間において機構から提出書類に関して説明を求められた場合は、これに応じなければならない。

4. 入札説明会の日時及び場所

入札説明会は実施しない。

5. 入札に関する質問の受付等

(1) 質問の方法

質問書（様式1）に所定事項を記入の上、電子メールにより提出すること。

(2) 受付期間

2026 年 1 月 16 日（金）から 2026 年 2 月 20 日（金）17 時 00 分まで

(3) 担当部署

16. (4) のとおり

6. 入札書等の提出方法及び提出期限等

(1) 受付期間

2026 年 2 月 24 日（火）から 2026 年 2 月 26 日（木）

持参の場合の受付時間は、月曜日から金曜日（祝祭日は除く）の 10 時 00 分から 17 時 00 分（12 時 30 分～13 時 30 分の間は除く）とし、郵送の場合は必着とする。

(2) 提出期限

2026 年 2 月 26 日（木）17 時 00 分必着

上記期限を過ぎた入札書等はいかなる理由があっても受け取らない。

(3) 提出書類

次の書類を持参又は郵送にて提出すること。

No.	提出書類		部数
①	委任状（代理人に委任する場合）	様式 2	1 通
②	入札書（封緘）	様式 3	1 通
③	<p>令和 7・8・9 年度競争参加資格（全省庁統一資格）における資格審査結果通知書の写し</p> <p>【上記の資格を有しない場合】</p> <p>登記簿謄本（商業登記法第 6 条第 5 号から第 9 号までに掲げる株式会社登記簿等の謄本）、納税証明書（その 3 の 3・「法人税」及び「消費税及地方消費税」について未納税額のない証明用）、営業経歴書（会社の沿革、組織図、従業員数等の概要、営業品目、営業実績及び営業所の所在状況を含んだ書類）及び財務諸表類（直前 2 年間の事業年度分に係る貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書）の原本又は写し</p> <p>※登記簿謄本及び納税証明書は、発行日から 3 か月以内のものに限る。</p>	—	1 通
④	適合証明書（別添資料がある場合は、添付すること）	様式 4	1 通
⑤	入札書等受理票	様式 5	1 通

(4) 提出方法

①入札書等提出書類を持参により提出する場合

入札書を封筒に入れ封緘し、封皮に氏名（法人の場合は商号又は名称）、宛先（16. (4) の担当者名）を記載するとともに「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その 3）一般競争入札に係る入札書在中」と朱書きし、その他提出書類を合わせて封筒に入れ封緘し、その封皮に氏名（法人の場合はその商号又は名称）、宛先（16. (4) の担当者名）を記載し、かつ、「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その 3）一般競争入札に係る提出書類在中」と朱書きすること。

②入札書等を郵便等（書留）により提出する場合

二重封筒とし、表封筒に「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その 3）一般競争入札に係る提出書類在中」と朱書きし、中封筒の封皮には直接提出する場合と同様とす

ること。

(5) 提出先

16. (4) のとおり

※ 持参の場合、13 階総合受付にて対応する。

7. 開札の日時及び場所

(1) 開札日時

2026 年 3 月 3 日(火) 11 時 00 分

(2) 開札の場所

東京都文京区本駒込 2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス 15 階
独立行政法人情報処理推進機構 委員会室 2

8. 入札保証金及び契約保証金

全額免除

9. 支払いの条件

納入物件の検収合格の後、適法な支払請求書を受理した場合において、翌月末日までに支払うものとする。

10. 契約者の役職及び氏名

独立行政法人情報処理推進機構 理事長 齊藤 裕

11. 契約手続きにおいて使用する言語及び通貨

日本語及び日本国通貨に限る。

12. 入札の無効

競争入札に参加する者に必要な資格のない者による入札及び競争入札に参加する者に求められる義務に違反した入札は無効とする。

13. 落札者の決定方法

機構会計規程第 29 条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内で、最低価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不適当であると認められるときは、予定価格の範囲内の価格をもって入札をした他の者のうち、最低の価格をもって入札した者を落札者とすることがある。

14. 契約書作成の要否

要

15. 契約条項

契約書（案）による。

16. その他

(1) 入札情報の開示

契約に係る情報については、機構ウェブサイトにて機構会計規程等に基づき公表^(注)するものとする。

(2) 入札内訳書の提出

落札者は、機構担当者が別途指示する期限までに入札内訳書を提出しなければならない。

(3) 入札行為に関する照会先

独立行政法人情報処理推進機構 経営企画センター 財務部 契約グループ 担当：菊池
電話番号：03-5978-7502
電子メール：fa-bid-kt@ipa.go.jp

(4) 仕様書に関する照会先

〒113-6591

東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス16階

独立行政法人情報処理推進機構 セキュリティセンター 対処調整部 APT 攻撃対策グループ

担当：岸野、酒井

電話番号：03-5978-7599

電子メール：isec-cc-kobo@ipa.go.jp

以上

(注) 独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づく契約に係る情報の公表について

独立行政法人が行う契約については、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）において、独立行政法人と一定の関係を有する法人と契約をする場合には、当該法人への再就職の状況、当該法人との間の取引等の状況について情報を公開するなどの取組を進めるとされているところです。

これに基づき、以下のとおり、当機構との関係に係る情報を当機構のウェブサイトで公表することとしますので、所要の情報の当方への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくよう御理解と御協力をお願いいたします。

なお、案件への応札若しくは応募又は契約の締結をもって同意されたものとみなさせていただきますので、ご了承ください。

(1) 公表の対象となる契約先

次のいずれにも該当する契約先

- ① 当機構において役員を経験した者（役員経験者）が再就職していること又は課長相当職以上の職を経験した者（課長相当職以上経験者）が役員、顧問等として再就職していること
- ② 当機構との間の取引高が、総売上高又は事業収入の 3 分の 1 以上を占めていること
- ※ 予定価格が一定の金額を超えない契約や光熱水費の支出に係る契約等は対象外

(2) 公表する情報

上記に該当する契約先について、契約ごとに、物品役務等の名称及び数量、契約締結日、契約先の名称、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表します。

- ① 当機構の役員経験者及び課長相当職以上経験者（当機構〇Ｂ）の人数、職名及び当機構における最終職名
- ② 当機構との間の取引高
- ③ 総売上高又は事業収入に占める当機構との間の取引高の割合が、次の区分のいずれかに該当する旨
3 分の 1 以上 2 分の 1 未満、2 分の 1 以上 3 分の 2 未満又は 3 分の 2 以上
- ④ 一者応札又は一者応募である場合はその旨

(3) 当方に提供していただく情報

- ① 契約締結日時点で在職している当機構〇Ｂに係る情報（人数、現在の職名及び当機構における最終職名等）
- ② 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び当機構との間の取引高

(4) 公表日

契約締結日の翌日から起算して原則として 72 日以内（4 月に締結した契約については原則として 93 日以内）

(5) 実施時期

平成 23 年 7 月 1 日以降の一般競争入札・企画競争・公募公告に係る契約及び平成 23 年 7 月 1 日以降に契約を締結した随意契約について適用します。

なお、応札若しくは応募又は契約の締結を行ったにもかかわらず情報提供等の協力をしていただけない相手方については、その名称等を公表させていただくことがあり得ますので、ご了承ください。

Ⅱ. 契約書（案）

2025 情財第〇〇号

契 約 書

独立行政法人情報処理推進機構（以下「甲」という。）と〇〇〇〇（以下「乙」という。）とは、次の条項により下記のサービス利用契約（以下「本契約」という。）を締結し、甲及び乙は、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

記

契約件名 標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）
契約金額 金〇〇〇, 〇〇〇円（うち消費税及び地方消費税〇〇〇, 〇〇〇円）
契約期間 契約締結日～2027 年 3 月 31 日

一般事項

（総則）

- 第 1 条 乙は、添付の仕様書に基づくライセンス（以下「サービス」という）を甲に提供し、甲はその対価を乙に支払うものとする。なお、本サービスの利用条件の詳細は、約款等に従うものとする。
- 2 乙は、サービスについて、約款等で保証する範囲を超えて甲に保証せずいかなる責任も負わないものとする。

（納入物件及び納入期限）

- 第 2 条 納入物件、納入期限及びその他納入に関する事項については、別紙仕様書のとおりとする。

（支払）

- 第 3 条 乙は、甲に本契約成立時に契約金額を請求することができる。
- 2 甲は、乙から適法な支払請求書を受理したときは、当該請求書を受理した日の属する月の翌月末日までに契約金額を支払うものとする。

（検査）

- 第 4 条 甲は、納入物の受領後から 10 日以内に、提供されたサービスについて仕様書に基づき検査を行うものとする。

（秘密の保持）

- 第 5 条 甲及び乙は、相互に本契約の履行過程において知り得た相手方の秘密を他に漏洩せず、また本契約の目的の範囲を超えて利用しない。ただし、甲が、法令等、官公署の要求、その他公益的見地に基づいて、必要最小限の範囲で開示する場合を除く。
- 2 個人情報に関する取扱いについては、別添「個人情報の取扱いに関する特則」のとおりとする。
- 3 前各項の規定は、本契約終了後も有効に存続する。

（損害賠償）

第 6 条 乙は、乙の責に帰すべき事由によって甲又は第三者に損害を与えたときは、その被った通常かつ直接の損害を賠償するものとする。ただし、乙の負う賠償額は、乙に故意又は重大な過失がある場合を除き、契約金額を超えないものとする。

(裁判管轄)

第 7 条 本契約に関する訴えの第一審は、甲の所在地を管轄する地方裁判所の管轄に専属する。

(雑則)

第 8 条 本契約に定めのない事項及び疑義については、甲乙協議し、誠意をもって解決する。なお、本契約条項と利用規約等が抵触する場合には、本契約条項を優先するものとする。

特記事項

(談合等の不正行為による契約の解除)

第 1 条 甲は、次の各号のいずれかに該当したときは、契約を解除することができる。

- 一 本契約に関し、乙が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和 22 年法律第 54 号。以下「独占禁止法」という。）第 3 条又は第 8 条第 1 号の規定に違反する行為を行ったことにより、次のイからハまでのいずれかに該当することとなったとき
 - イ 独占禁止法第 61 条第 1 項に規定する排除措置命令が確定したとき
 - ロ 独占禁止法第 62 条第 1 項に規定する課徴金納付命令が確定したとき
 - ハ 独占禁止法第 7 条の 4 第 7 項又は第 7 条の 7 第 3 項の課徴金納付命令を命じない旨の通知があったとき
- 二 本契約に関し、乙の独占禁止法第 89 条第 1 項又は第 95 条第 1 項第 1 号に規定する刑が確定したとき
- 三 本契約に関し、乙（法人の場合にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治 40 年法律第 45 号）第 96 条の 6 又は第 198 条に規定する刑が確定したとき

(談合等の不正行為に係る通知文書の写しの提出)

第 2 条 乙は、前条第 1 号イからハまでのいずれかに該当することとなったときは、速やかに、次の各号の文書のいずれかの写しを甲に提出しなければならない。

- 一 独占禁止法第 61 条第 1 項の排除措置命令書
- 二 独占禁止法第 62 条第 1 項の課徴金納付命令書
- 三 独占禁止法第 7 条の 4 第 7 項又は第 7 条の 7 第 3 項の課徴金納付命令を命じない旨の通知文書

(談合等の不正行為による損害の賠償)

第 3 条 乙が、本契約に関し、第 1 条の各号のいずれかに該当したときは、甲が本契約を解除するかどうかにかかわらず、かつ、甲が損害の発生及び損害額を立証することを要することなく、乙は、契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額）の 100 分の 10 に相当する金額（その金額に 100 円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた金額）を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。

2 前項の規定は、本契約による履行が完了した後も適用するものとする。

3 第 1 項に規定する場合において、乙が事業者団体であり、既に解散しているときは、甲は、乙の代表者であった者又は構成員であった者に違約金の支払を請求することができる。この場合において、乙の代表者であった者及び構成員であった者は、連帯して支払わなければならない。

- 4 第 1 項の規定は、甲に生じた実際の損害額が同項に規定する違約金の金額を超える場合において、甲がその超える分について乙に対し損害賠償金を請求することを妨げるものではない。
- 5 乙が、第 1 項の違約金及び前項の損害賠償金を甲が指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年 3 パーセントの割合で計算した金額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

(暴力団関与の属性要件に基づく契約解除)

第 4 条 甲は、乙が次の各号の一に該当すると認められるときは、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

- 一 法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団員（同法第 2 条第 6 号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- 二 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
- 三 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- 四 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(再請負契約等に関する契約解除)

- 第 5 条 乙は、本契約に関する再請負先等（再請負先（下請が数次にわたるときは、すべての再請負先を含む。）並びに自己、再請負先が当該契約に関連して第三者と何らかの個別契約を締結する場合の当該第三者をいう。以下同じ。）が解除対象者（前条に規定する要件に該当する者をいう。以下同じ。）であることが判明したときは、直ちに当該再請負先等との契約を解除し、又は再請負先等に対し解除対象者との契約を解除させるようにしなければならない。
- 2 甲は、乙が再請負先等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは再請負先等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該再請負先等との契約を解除せず、若しくは再請負先等に対し契約を解除させるための措置を講じないときは、本契約を解除することができる。

(損害賠償)

- 第 6 条 甲は、第 4 条又は前条第 2 項の規定により本契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。
- 2 乙は、甲が第 4 条又は前条第 2 項の規定により本契約を解除した場合において、甲に損害が生じたときは、その損害を賠償するものとする。
 - 3 乙が、本契約に関し、第 4 条又は前条第 2 項の規定に該当したときは、甲が本契約を解除するかどうかにかかわらず、かつ、甲が損害の発生及び損害額を立証することを要することなく、乙は、契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額）の 100 分の 10 に相当する金額（その金額に 100 円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた金額）を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。
 - 4 前項の規定は、本契約による履行が完了した後も適用するものとする。
 - 5 第 2 項に規定する場合において、乙が事業者団体であり、既に解散しているときは、甲は、乙の

代表者であった者又は構成員であった者に違約金の支払を請求することができる。この場合において、乙の代表者であった者及び構成員であった者は、連帯して支払わなければならない。

- 6 第 3 項の規定は、甲に生じた実際の損害額が同項に規定する違約金の金額を超える場合において、甲がその超える分について乙に対し損害賠償金を請求することを妨げるものではない。
- 7 乙が、第 3 項の違約金及び前項の損害賠償金を甲が指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年 3 パーセントの割合で計算した金額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

(不当介入に関する通報・報告)

- 第 7 条 乙は、本契約に関して、自ら又は再請負先等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係者等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、これを拒否し、又は再請負先等をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当介入の事実を甲に報告するとともに警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

本契約の締結を証するため、本契約書 2 通を作成し、双方記名押印の上、甲、乙それぞれ 1 通を保有する。

2026 年〇月〇日

甲 東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号
独立行政法人情報処理推進機構
理事長 齊藤 裕

乙 〇〇県〇〇市〇〇町〇丁目〇番〇〇号
株式会社〇〇〇〇〇〇〇〇
代表取締役 〇〇 〇〇

個人情報の取扱いに関する特則

(定義)

第 1 条 本特則において、「個人情報」とは、業務に関する情報のうち、個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる記述、個人別に付された番号、記号その他の符号又は画像もしくは音声により当該個人を識別することのできるもの（当該情報のみでは識別できないが、他の情報と容易に照合することができ、それにより当該個人を識別できるものを含む。）をいい、秘密であるか否かを問わない。以下各条において、「当該個人」を「情報主体」という。

(責任者の選任)

第 2 条 乙は、個人情報を取扱う場合において、個人情報の責任者を選任して甲に届け出る。

2 乙は、第 1 項により選任された責任者に変更がある場合は、直ちに甲に届け出る。

(個人情報の収集)

第 3 条 乙は、業務遂行のため自ら個人情報を収集するときは、「個人情報の保護に関する法律」その他の法令に従い、適切且つ公正な手段により収集するものとする。

(開示・提供の禁止)

第 4 条 乙は、個人情報の開示・提供の防止に必要な措置を講じるとともに、甲の事前の書面による承諾なしに、第三者（情報主体を含む）に開示又は提供してはならない。ただし、法令又は強制力ある官署の命令に従う場合を除く。

2 乙は、業務に従事する従業員以外の者に、個人情報を取り扱わせてはならない。

3 乙は、業務に従事する従業員のうち個人情報を取り扱う従業員に対し、その在職中及びその退職後においても個人情報を他人に開示・提供しない旨の誓約書を提出させるとともに、随時の研修・注意喚起等を実施してこれを厳正に遵守させるものとする。

(目的外使用の禁止)

第 5 条 乙は、個人情報を業務遂行以外のいかなる目的にも使用してはならない。

(複写等の制限)

第 6 条 乙は、甲の事前の書面による承諾を得ることなしに、個人情報を複写又は複製してはならない。ただし、業務遂行上必要最小限の範囲で行う複写又は複製については、この限りではない。

(個人情報の管理)

第 7 条 乙は、個人情報を取り扱うにあたり、本特則第 4 条所定の防止措置に加えて、個人情報に対する不正アクセスまたは個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えい等のリスクに対し、合理的な安全対策を講じなければならない。

2 乙は、前項に従って講じた措置を、遅滞なく甲に書面で報告するものとする。これを変更した場合も同様とする。

3 甲は、乙に事前に通知の上乙の事業所に立入り、乙における個人情報の管理状況を調査することができる。

4 前三項に関して甲が別途に管理方法を指示するときは、乙は、これに従わなければならない。

5 乙は、業務に関して保管する個人情報（甲から預託を受け、或いは乙自ら収集したものを含む）について甲から開示・提供を求められ、訂正・追加・削除を求められ、或いは業務への利用の停

止を求められた場合、直ちに且つ無償で、これに従わなければならない。

(返還等)

- 第8条 乙は、甲から要請があったとき、又は業務が終了（本契約解除の場合を含む）したときは、個人情報が含まれるすべての物件（これを複写、複製したものを含む。）を直ちに甲に返還し、又は引き渡すとともに、乙のコンピュータ等に登録された個人情報のデータを消去して復元不可能な状態とし、その旨を甲に報告しなければならない。ただし、甲から別途に指示があるときは、これに従うものとする。
- 2 乙は、甲の指示により個人情報が含まれる物件を廃棄するときは、個人情報が判別できないような必要な処置を施した上で廃棄しなければならない。

(記録)

- 第9条 乙は、個人情報の受領、管理、使用、訂正、追加、削除、開示、提供、複製、返還、消去及び廃棄についての記録を作成し、甲から要求があった場合は、当該記録を提出し、必要な報告を行うものとする。
- 2 乙は、前項の記録を業務の終了後5年間保存しなければならない。

(再請負)

- 第10条 乙が甲の承諾を得て業務を第三者に再請負する場合は、十分な個人情報の保護水準を満たす再請負先を選定するとともに、当該再請負先との間で個人情報保護の観点から見て本特則と同等以上の内容の契約を締結しなければならない。この場合、乙は、甲から要求を受けたときは、当該契約書面の写しを甲に提出しなければならない。
- 2 前項の場合といえども、再請負先の行為を乙の行為とみなし、乙は、本特則に基づき乙が負担する義務を免れない。

(事故)

- 第11条 乙において個人情報に対する不正アクセスまたは個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えい等の事故が発生したときは、当該事故の発生原因の如何にかかわらず、乙は、ただちにその旨を甲に報告し、甲の指示に従って、当該事故の拡大防止や収拾・解決のために直ちに応急措置を講じるものとする。なお、当該措置を講じた後ただちに当該事故及び応急措置の報告並びに事故再発防止策を書面により甲に提示しなければならない。
- 2 前項の事故が乙の本特則の違反に起因する場合において、甲が情報主体又は甲の顧客等から損害賠償請求その他の請求を受けたときは、甲は、乙に対し、その解決のために要した費用（弁護士費用を含むがこれに限定されない）を求償することができる。なお、当該求償権の行使は、甲の乙に対する損害賠償請求権の行使を妨げるものではない。
- 3 第1項の事故が乙の本特則の違反に起因する場合は、本契約が解除される場合を除き、乙は、前二項のほか、当該事故の善後策として必要な措置について、甲の別途の指示に従うものとする。

以上

Ⅲ. 仕様書

1. 件名

標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）

2. 背景・目的

脅威情報収集業務に活用する。

3. サービスの仕様

別添のとおり。

4. 納入関連

4.1 納入期限

2026 年 4 月 1 日

4.2 納入物件

ライセンス発行通知書

＜ライセンス条件＞

・利用期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

4.3 納入場所

〒113-6591

東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 8 号 文京グリーンコートセンターオフィス 16 階

独立行政法人情報処理推進機構

セキュリティセンター 対処調整部

5. 検査条件

本仕様書において要求する事項を全て満たしているものであること。

(別添) サービスの仕様

(1) 概要

- ・ サイバーセキュリティ対策のための情報提供を目的として、2025 年 12 月時点で下記の脅威インテリジェンス機能を有すること
 - (1) 悪意あるファイル、URL、ドメイン、IP アドレスといったインジケータ (IOC: Indicator of Compromise) の確認
 - (2) ファイルの解析、類似ファイルの検索機能
 - (3) アタックサーフェス管理機能 (ASM)
 - (4) ダークウェブ、ディープウェブの監視機能 (DRP)
 - (5) サイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪に関する情報

(2) 提供形態

- ・ SaaS により機能を提供すること
- ・ Web ブラウザから提供内容の情報を関連項目にて検索し、レポート形式の結果を画面及び PDF 形式にて参照出来ること
- ・ API を利用して、提供内容の情報について検索及び取得できること

(3) 分析体制

- ・ セキュリティ分析組織として、下記の目的をもつチームを有していること
 - ・ サービス提供元が提供するクラウドサービスを標的とするサイバー攻撃を追跡・分析するチーム
 - ・ 政府支援のハッカーグループや高度な脅威アクターによる攻撃の監視・分析を行うチーム
 - ・ 脅威アクターの活動やマルウェアの情報共有を目的としたセキュリティコミュニティの運営チーム
- ・ 分析を行う体制について下記の要件を満たすこと
 - ・ 300 名以上の専任のアナリストを有する
 - ・ 30 言語（日本語を含む）以上の言語に対応している
 - ・ 日本を含む 24 以上の国にアナリストを配置している
- ・ 情報源とする情報は下記の全ての情報を含むこと
 - ・ サービス提供元がインターネット上に設置したセンサーから入手した情報
 - ・ サービス提供元が提供するインシデントレスポンスサービスにおいて、実際に侵害された企業等における対応から入手した情報
 - ・ インターネット、ダークウェブ上の情報

(4) IOC 確認機能

- ・ 悪性 IoC について収集を実施する実績が 20 年以上あること
- ・ Web 経由による IoC 検索、Report 検索が月に合計 100,000 件できること
- ・ API 経由による IoC 検索が 1 日に 30,000 件できること
- ・ 指定したルールによる IoC の抽出と通知が、新しく登録される情報に対してできること (LiveHunt)
- ・ 指定したルールによる IoC 抽出が、過去 1 年以内の情報に対してできること (Retrohunt)
- ・ マルウェアを含むファイル検体について、月に 100,000 件、Web 経由でダウンロードできること
- ・ 下記の IoC について収集が行われており、情報を参照できること

- ・ 500 億以上のファイル
- ・ 60 億以上の URL
- ・ 50 億以上のドメイン
- ・ 1700 億以上の DNS レコード (passiveDNS を含む)
- ・ 70 以上のアンチウイルス製品による評価を確認できること
- ・ ブラウザの拡張機能を提供しており、インターネット上の任意のページについて、サービスの提供元が保有するインジケータと照合し、合致した文字列が存在する場合には、当該文字列をハイライト表示し、関連するレポートのリンクを表示できること

(5) ファイル解析機能

- ・ ファイルをアップロードすることにより、70 以上のアンチウイルス製品による評価とともに、関連するマルウェア名、サイバー攻撃者グループ、レポートなどを確認できること
- ・ ファイル解析の結果を他の利用者や外部に公開せず、自組織の利用環境の中でのみ保持できること

(6) ASM 機能

- ・ インターネットに露出した自組織の IT 資産を、攻撃者の視点で探索できること
- ・ 発見した IT 資産が利用しているソフトウェアなど、利用テクノロジーを識別できること
- ・ 発見した IT 資産のセキュリティの問題点の評価できること
- ・ IT 資産の探索、テクノロジーの識別、問題点の評価を定期的に自動実行できること
- ・ IT 資産の探索、テクノロジーの識別、問題点の評価を任意のタイミングで実行できること
- ・ 探索可能な IT 資産として DNS レコード、Web サイト、SSL 証明書のほか、S3 バケットなどのクラウドリソース、API エンドポイント、GoogleAnalytics トラック ID などのユニークトークンに対応していること
- ・ IT 資産の探索にあたり、OSINT 情報を含む 250 以上の情報源を利用していること
- ・ GoogleCloud, AWS, Azure と直接連携する機能を有し、クラウドリソースに対する高い精度の探索ができること
- ・ 発見した IT 資産について、発見に至った探索経路を画面上で確認できること
- ・ ソフトウェアのバージョン情報を元にした脆弱性判定のほかに、実際に脆弱性判定の通信を行う機能を有すること
- ・ バージョン判定によって確認した問題点と、脆弱性判定の通信で確認した問題点を分けて分けて管理できること
- ・ log4j などアプリケーションのプラグイン、ライブラリの脆弱性の検査が可能であること
- ・ 重大度の判定には、CVSSv3 のほか、自社で提供するインシデントレスポンスサービスで培った独自の脅威インテリジェンスの情報が用いられていること

(7) DRP 機能

- ・ 漏洩した自組織の認証情報について監視を行い、アラートを受け取れること
- ・ 漏洩した自組織の関連情報について監視を行い、アラートを受け取れること
- ・ 自組織のドメインや類似ドメインについて監視を行い、問題点をアラートを受け取れること
- ・ 漏洩した自組織のネットワーク情報について監視を行い、アラートを受け取れること
- ・ 指定した条件でダークウェブ・ディープウェブの監視を行い、アラートを受け取れること

(8) 脅威情報機能

- ・ サイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪に関する情報を提供すること
- ・ サイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪について、下記の数量以上のレポートを有すること
 - ・ サイバーエスピオナージ 7,000
 - ・ サイバー犯罪 20,000
- ・ レポートには下記の観点について、サービス提供元のアナリストが分析した内容が含まれること
 - (1) サイバー攻撃者グループ
 - (2) 関与している国家
 - (3) ターゲットとしている国及び業種
 - (4) 動機（サイバーエスピオナージかサイバー犯罪の別）
 - (5) TTP (Tactics, Techniques, and Procedures)
 - (6) 使用したマルウェア
 - (7) 狙われた脆弱性
 - (8) 攻撃キャンペーン履歴
 - (9) 成功した侵害
 - (10) インジケータ（悪意ある IP アドレス、ドメイン名、ファイルハッシュ値、メールアドレス等）
 - (11) MITRE 社 ATT&CK フレームワークに対応した攻撃者のテクニック
- ・ インターネットや報道等にて公表されたサイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪に関する情報について、サービス提供元のアナリストが当該情報の真偽を分析した結果を提供すること
- ・ Web ブラウザから提供内容の情報を関連項目にて検索し、レポート形式の結果を画面及び PDF 形式にて参照出来ること
- ・ 日本について直接言及しているレポートを 1,500 以上有すること
- ・ 年間の新規レポート発行数が 2500 件以上あること
- ・ カスタマイズ可能なダッシュボード機能を有し、特定の業界や国を指定することで、関連するサイバー攻撃者グループ、攻撃キャンペーン、マルウェア名、脆弱性の情報を表示できること
- ・ 生成 AI を用いた対話的なやり取りができ、レポートの要約や脅威情報の解説ができること

(9) 管理機能

- (1) 利用者毎にユーザ ID を付与できること
- (2) 二要素認証によるログインに対応していること
- (3) 利用者毎に API 利用上限量やアクセス権を設定できること

(10) 第三者機関評価

- ・ サービス提供元について、第三者機関(Gartner や Forrester Wave など)から、下記の分野においてリーダーと評価されている、または評価された実績があること
 - ・ 外部脅威インテリジェンス分野におけるリーダー
 - ・ ワールドワイドインシデントレスポンスサービス分野におけるリーダー
 - ・ サイバーセキュリティ コンサルティングサービス分野におけるリーダー
 - ・ エンタープライズ SIEM 分野におけるリーダー
 - ・ データセキュリティ プラットフォーム分野におけるリーダー

- ・クラウド AI デベロッパー サービスにおけるリーダー
- ・エンタープライズデータの保護におけるリーダー

以上

IV. その他関連資料

【資料1】

独立行政法人情報処理推進機構入札心得

(趣 旨)

第1条 独立行政法人情報処理推進機構（以下「機構」という。）の契約に係る一般競争又は指名競争（以下「競争」という。）を行う場合において、入札者が熟知し、かつ遵守しなければならない事項は、関係法令、機構会計規程及び入札説明書に定めるもののほか、この心得に定めるものとする。

(仕様書等)

第2条 入札者は、仕様書、図面、契約書案及び添付書類を熟読のうえ入札しなければならない。

2 入札者は、前項の書類について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができる。

3 入札者は、入札後、第1項の書類についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

(入札保証金及び契約保証金)

第3条 入札保証金及び契約保証金は、全額免除する。

(入札の方法)

第4条 入札者は、別紙様式による入札書を直接又は郵便等で提出しなければならない。

(入札書の記載)

第5条 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10パーセントに相当する額を加算した金額をもって落札価格とするので、入札者は消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

(直接入札)

第6条 直接入札を行う場合は、入札書を封筒に入れ、封緘のうえ入札者の氏名を表記し、予め指定された時刻までに契約担当職員等に提出しなければならない。この場合において、入札書とは別に提案書及び証書等の書類を添付する必要がある入札にあっては、入札書と併せてこれら書類を提出しなければならない。

2 入札者は、代理人をして入札させるときは、その委任状を持参させなければならない。

(郵便等入札)

第7条 郵便等入札を行う場合には、二重封筒とし、入札書の中封筒に入れ、封緘のうえ入札者の氏名、宛先、及び入札件名を表記し、予め指定された時刻までに到着するように契約担当職員等あて書留で提出しなければならない。この場合において、入札書とは別に提案書及び証書等の書類を添付する必要がある入札にあっては、入札書と併せてこれら書類を提出しなければならない。

2 入札者は、代理人をして入札させるときは、その委任状を同封しなければならない。

(代理人の制限)

第8条 入札者又はその代理人は、当該入札に対する他の代理をすることができない。

2 入札者は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号、以下「予決令」という。）第71条第1項各号の一に該当すると認められる者を競争に参加することが出来ない期間は入札代理人とすることができない。

（条件付きの入札）

第9条 予決令第72条第1項に規定する一般競争に係る資格審査の申請を行ったものは、競争に参加する者に必要な資格を有すると認められること又は指名競争の場合にあっては指名されることを条件に入札書を提出することができる。この場合において、当該資格審査申請書の審査が開札日までに終了しないとき又は資格を有すると認められなかったとき若しくは指名されなかったときは、当該入札書は落札の対象としない。

（入札の取り止め等）

第10条 入札参加者が連合又は不穏の行動をなす場合において、入札を公正に執行することができないと認められるときは、当該入札者を入札に参加させず又は入札の執行を延期し、若しくは取り止めることがある。

（入札の無効）

第11条 次の各号の一に該当する入札は、無効とする。

- (1) 競争に参加する資格を有しない者による入札
- (2) 指名競争入札において、指名通知を受けていない者による入札
- (3) 委任状を持参しない代理人による入札
- (4) 記名押印（外国人又は外国法人にあっては、本人又は代表者の署名をもって代えることができる。）を欠く入札
- (5) 金額を訂正した入札
- (6) 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- (7) 明らかに連合によると認められる入札
- (8) 同一事項の入札について他人の代理人を兼ね又は2者以上の代理をした者の入札
- (9) 入札者に求められる義務を満たすことを証明する必要がある入札にあっては、証明書が契約担当職員等の審査の結果採用されなかった入札
- (10) 入札書受領期限までに到着しない入札
- (11) 暴力団排除に関する誓約事項（別記）について、虚偽が認められた入札
- (12) その他入札に関する条件に違反した入札

（開 札）

第12条 開札には、入札者又は代理人を立ち合わせて行うものとする。ただし、入札者又は代理人が立会わない場合は、入札執行事務に関係のない職員を立会わせて行うものとする。

（調査基準価格、低入札価格調査制度）

第13条 工事その他の請負契約（予定価格が1千万円を超えるものに限る。）について機構会計規程細則第26条の3第1項に規定する相手方となるべき者の申込みに係る価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がされないこととなるおそれがあると認められる場合の基準は次の各号に定める契約の種類ごとに当該各号に定める額（以下「調査基準価格」という。）に満たない場合とする。

- (1) 工事の請負契約 その者の申込みに係る価格が契約ごとに 3 分の 2 から 10 分の 8.5 の範囲で契約担当職員等の定める割合を予定価格に乗じて得た額
- (2) 前号以外の請負契約 その者の申込みに係る価格が 10 分の 6 を予定価格に乗じて得た額
- 2 調査基準価格に満たない価格をもって入札（以下「低入札」という。）した者は、事後の資料提出及び契約担当職員等が指定した日時及び場所で開催するヒアリング等（以下「低入札価格調査」という。）に協力しなければならない。
- 3 低入札価格調査は、入札理由、入札価格の積算内訳、手持工事等の状況、履行体制、国及び地方公共団体等における契約の履行状況等について実施する。

（落札者の決定）

- 第 14 条 一般競争入札最低価格落札方式（以下「最低価格落札方式」という。）にあつては、有効な入札を行った者のうち、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札した者を落札者とする。また、一般競争入札総合評価落札方式（以下「総合評価落札方式」という。）にあつては、契約担当職員等が採用できると判断した提案書を入札書に添付して提出した入札者であつて、その入札金額が予定価格の制限の範囲内で、かつ提出した提案書と入札金額を当該入札説明書に添付の評価手順書に記載された方法で評価、計算し得た評価値（以下「総合評価点」という。）が最も高かった者を落札者とする。
- 2 低入札となった場合は、一旦落札決定を保留し、低入札価格調査を実施の上、落札者を決定する。
 - 3 前項の規定による調査の結果その者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあつて著しく不適当であると認められるときは、次の各号に定める者を落札者とすることがある。
 - (1) 最低価格落札方式 予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札をした他の者のうち、最低の価格をもって入札した者
 - (2) 総合評価落札方式 予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札をした他の者のうち、総合評価点が最も高かった者

（再度入札）

- 第 15 条 開札の結果予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、直ちに再度の入札を行う。なお、開札の際に、入札者又はその代理人が立ち会わなかった場合は、再度入札を辞退したものとみなす。
- 2 前項において、入札者は、代理人をして再度入札させるときは、その委任状を持参させなければならない。

（同価格又は同総合評価点の入札者が二者以上ある場合の落札者の決定）

- 第 16 条 落札となるべき同価格又は同総合評価点の入札をした者が二者以上あるときは、直ちに当該入札をした者又は第 12 条ただし書きにおいて立ち会いをした者にくじを引かせて落札者を決定する。
- 2 前項の場合において、当該入札をした者のうちくじを引かない者があるときは、これに代わつて入札事務に関係のない職員にくじを引かせるものとする。

（契約書の提出）

- 第 17 条 落札者は、契約担当職員等から交付された契約書に記名押印（外国人又は外国法人が落札者である場合には、本人又は代表者が署名することをもって代えることができる。）し、落札決定の日から 5 日以内（期終了の日が行政機関の休日に関する法律（昭和 63 年法律第 91 号）第 1 条に

規定する日に当たるときはこれを算入しない。)に契約担当職員等に提出しなければならない。ただし、契約担当職員等が必要と認めた場合は、この期間を延長することができる。

2 落札者が前項に規定する期間内に契約書を提出しないときは、落札はその効力を失う。

(入札書に使用する言語及び通貨)

第 18 条 入札書及びそれに添付する仕様書等に使用する言語は、日本語とし、通貨は日本国通貨に限る。

(落札決定の取消し)

第 19 条 落札決定後であっても、この入札に関して連合その他の事由により正当な入札でないことが判明したときは、落札決定を取消することができる。

以上

暴力団排除に関する誓約事項

当社（個人である場合は私、団体である場合は当団体）は、下記の「契約の相手方として不適当な者」のいずれにも該当しません。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

記

1. 契約の相手方として不適当な者

- (1) 法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき

上記事項について、入札書の提出をもって誓約します。

【資料2】

予算決算及び会計令【抜粋】

(一般競争に参加させることができない者)

第 70 条 契約担当官等は、売買、貸借、請負その他の契約につき会計法第二十九条の三第一項の競争（以下「一般競争」という。）に付するときは、特別の理由がある場合を除くほか、次の各号のいずれかに該当する者を参加させることができない。

- 一 当該契約を締結する能力を有しない者
- 二 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者
- 三 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第三十二条第一項各号に掲げる者

(一般競争に参加させないことができる者)

第 71 条 契約担当官等は、一般競争に参加しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、その者について三年以内の期間を定めて一般競争に参加させないことができる。その者を代理人、支配人その他の使用人として使用する者についても、また同様とする。

- 一 契約の履行に当たり故意に工事、製造その他の役務を粗雑に行い、又は物件の品質若しくは数量に関して不正の行為をしたとき。
 - 二 公正な競争の執行を妨げたとき又は公正な価格を害し若しくは不正の利益を得るために連合したとき。
 - 三 落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げたとき。
 - 四 監督又は検査の実施に当たり職員の職務の執行を妨げたとき。
 - 五 正当な理由がなくて契約を履行しなかつたとき。
 - 六 契約により、契約の後に代価の額を確定する場合において、当該代価の請求を故意に虚偽の事実に基づき過大な額で行つたとき。
 - 七 この項（この号を除く。）の規定により一般競争に参加できないこととされている者を契約の締結又は契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用したとき。
- 2 契約担当官等は、前項の規定に該当する者を入札代理人として使用する者を一般競争に参加させないことができる。

(様式1)

質問書枚数	枚中／	枚目
-------	-----	----

年 月 日

質 問 書

独立行政法人情報処理推進機構 御中
(担当部署：セキュリティセンター 対処調整部)

会 社 名 :
担当部署 :
担当者名 :
電 話 :
ファックス :
電子メール :

「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）」（2026年1月16日付公告）に関する質問書を提出します。

資 料 名	
ペ ー ジ	
項 目 名	
質問内容	

- (1) 質問書（様式）には、機構ウェブサイトにて公開している入札説明書の資料名、ページ及び項目名を記載すること。
- (2) 質問は、本様式1枚につき1問とし、簡潔にまとめて記載すること。
- (3) 質問者自身の既得情報（特殊な技術、ノウハウ等）、個人情報に関する内容については、質問書に公表しない旨を記入すること。
- (4) 質問者の企業名等は公表しない。

(様式2)

年 月 日

独立行政法人情報処理推進機構 理事長 殿

所 在 地

商号又は名称

代表者氏名
(又は代理人)

印

委 任 状

私は、下記の者を代理人と定め、「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）」の入札に関する一切の権限を委任します。

代 理 人(又は復代理人)

所 在 地

所属・役職名

氏 名

使 用 印 鑑



(様式 3)

年 月 日

独立行政法人情報処理推進機構 理事長 殿

所在地

商号又は名称

代表者氏名

印

(又は代理人、復代理人氏名)

印

入 札 書

入札金額 ¥ (税抜)

(※ 下記件名に係る費用の総価を記載すること)

件 名 「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）」

契約条項の内容及び貴機構入札心得を承知のうえ、入札いたします。

(様式4)

適 合 証 明 書

年 月 日

独立行政法人情報処理推進機構
理事長 齊藤 裕 殿

所 在 地
会 社 名
代表者氏名

印

「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）」（2026年1月16日付公告）の入札に際し、別添のとおり、貴機構の仕様に適合することを証明するため、本証明書を提出いたします。また、本証明書に示した以外の事項にあっても、貴機構の仕様の全ての事項を満たすことを証明します。

なお、落札した場合には、仕様書に従い、万全を期して業務を行いますが、万一不測の事態が生じた場合には、貴機構の指示の下、全社を挙げて直ちに対応いたします。

(本件に関する問い合わせ先)

担当部署 :
担当者名 :
電 話 :
ファックス :
電子メール :

適合証明書詳細一覧表

	仕様書の要件	詳細内容	適合
1	【概要】 <ul style="list-style-type: none"> サイバーセキュリティ対策のための情報提供を目的として、2025 年 12 月時点で下記の脅威インテリジェンス機能を有すること <ul style="list-style-type: none"> (1) 悪意あるファイル、URL、ドメイン、IP アドレスといったインジケータ (IOC: Indicator of Compromise) の確認 (2) ファイルの解析、類似ファイルの検索機能 (3) アタックサーフェス管理機能 (ASM) (4) ダークウェブ、ディープウェブの監視機能 (DRP) (5) サイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪に関する情報 		
2	【提供形態】 <ul style="list-style-type: none"> SaaS により機能を提供すること Web ブラウザから提供内容の情報を関連項目にて検索し、レポート形式の結果を画面及び PDF 形式にて参照出来ること API を利用して、提供内容の情報について検索及び取得できること 		
3	【分析体制】 <ul style="list-style-type: none"> セキュリティ分析組織として、下記の目的をもつチームを有していること <ul style="list-style-type: none"> サービス提供元が提供するクラウドサービスを標的とするサイバー攻撃を追跡・分析するチーム 政府支援のハッカーグループや高度な脅威アクターによる攻撃の監視・分析を行うチーム 脅威アクターの活動やマルウェアの情報共有を目的としたセキュリティコミュニティの運営チーム 分析を行う体制について下記の要件を満たすこと <ul style="list-style-type: none"> 300 名以上の専任のアナリストを有する 		

	仕様書の要件	詳細内容	適合
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30 言語（日本語を含む）以上の言語に対応している ・ 日本を含む 24 以上の国にアナリストを配置している ・ 情報源とする情報は下記の全ての情報を含むこと <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス提供元がインターネット上に設置したセンサーから入手した情報 ・ サービス提供元が提供するインシデントレスポンスサービスにおいて、実際に侵害された企業等における対応から入手した情報 ・ インターネット、ダークウェブ上の情報 		
4	<p>【IOC 確認機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 悪性 IoC について収集を実施する実績が 20 年以上あること ・ Web 経由による IoC 検索、Report 検索が月に合計 100,000 件できること ・ API 経由による IoC 検索が 1 日に 30,000 件できること ・ 指定したルールによる IoC の抽出と通知が、新しく登録される情報に対してできること (LiveHunt) ・ 指定したルールによる IoC 抽出が、過去 1 年以内の情報に対してできること (Retrohunt) ・ マルウェアを含むファイル検体について、月に 100,000 件、Web 経由でダウンロードできること ・ 下記の IoC について収集が行われており、情報を参照できること <ul style="list-style-type: none"> ・ 500 億以上のファイル ・ 60 億以上の URL ・ 50 億以上のドメイン ・ 1700 億以上の DNS レコード (passiveDNS を含む) ・ 70 以上のアンチウイルス製品による評価を確認できること ・ ブラウザの拡張機能を提供しており、インターネット上の任意のページについて、サービスの提供元が保有するインジケータと照合し、合致した文字列が存在 		

	仕様書の要件	詳細内容	適合
	<p>する場合には、当該文字列をハイライト表示し、関連するレポートのリンクを表示できること</p>		
5	<p>【ファイル解析機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファイルをアップロードすることにより、70 以上のアンチウイルス製品による評価とともに、関連するマルウェア名、サイバー攻撃者グループ、レポートなどを確認できること ・ ファイル解析の結果を他の利用者や外部に公開せず、自組織の利用環境の中でのみ保持できること 		
6	<p>【ASM 機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットに露出した自組織の IT 資産を、攻撃者の視点で探索できること ・ 発見した IT 資産が利用しているソフトウェアなど、利用テクノロジーを識別できること ・ 発見した IT 資産のセキュリティの問題点の評価できること ・ IT 資産の探索、テクノロジーの識別、問題点の評価を定期的に自動実行できること ・ IT 資産の探索、テクノロジーの識別、問題点の評価を任意のタイミングで実行できること ・ 探索可能な IT 資産として DNS レコード、Web サイト、SSL 証明書のほか、S3 バケットなどのクラウドリソース、API エンドポイント、GoogleAnalytics トラック ID などのユニークトークンに対応していること ・ IT 資産の探索にあたり、OSINT 情報を含む 250 以上の情報源を利用していること ・ GoogleCloud, AWS, Azure と直接連携する機能を有し、クラウドリソースに対する高い精度の探索ができること ・ 発見した IT 資産について、発見に至った探索経路を画面上で確認できること ・ ソフトウェアのバージョン情報を元にした脆弱性判定のほかに、実際に脆弱性判定の通信を行う機能を有すること ・ バージョン判定によって確認した問題点 		

	仕様書の要件	詳細内容	適合
	<p>と、脆弱性判定の通信で確認した問題点を分けて分けて管理できること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ log4j などアプリケーションのプラグイン、ライブラリの脆弱性の検査が可能であること ・ 重大度の判定には、CVSSv3 のほか、自社で提供するインシデントレスポンスサービスで培った独自の脅威インテリジェンスの情報が用いられていること 		
7	<p>【DRP 機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漏洩した自組織の認証情報について監視を行い、アラートを受け取れること ・ 漏洩した自組織の関連情報について監視を行い、アラートを受け取れること ・ 自組織のドメインや類似ドメインについて監視を行い、問題点をアラートを受け取れること ・ 漏洩した自組織のネットワーク情報について監視を行い、アラートを受け取れること ・ 指定した条件でダークウェブ・ディープウェブの監視を行い、アラートを受け取れること 		
8	<p>【脅威情報機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪に関する情報を提供すること ・ サイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪について、下記の数量以上のレポートを有すること <ul style="list-style-type: none"> ・ サイバーエスピオナージ 7,000 ・ サイバー犯罪 20,000 ・ レポートには下記の観点について、サービス提供元のアナリストが分析した内容が含まれること <ol style="list-style-type: none"> (1) サイバー攻撃者グループ (2) 関与している国家 (3) ターゲットとしている国及び業種 (4) 動機（サイバーエスピオナージかサイバー犯罪の別） (5) TTP (Tactics, Techniques, and Procedures) (6) 使用したマルウェア (7) 狙われた脆弱性 		

	仕様書の要件	詳細内容	適合
	<p>(8) 攻撃キャンペーン履歴</p> <p>(9) 成功した侵害</p> <p>(10) インジケータ（悪意ある IP アドレス、ドメイン名、ファイルハッシュ値、メールアドレス等）</p> <p>(11) MITRE 社 ATT&CK フレームワークに対応した攻撃者のテクニック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットや報道等にて公表されたサイバーエスピオナージ及びサイバー犯罪に関する情報について、サービス提供元のアナリストが当該情報の真偽を分析した結果を提供すること ・ Web ブラウザから提供内容の情報を関連項目にて検索し、レポート形式の結果を画面及び PDF 形式にて参照出来ること ・ 日本について直接言及しているレポートを 1,500 以上有すること ・ 年間の新規レポート発行数が 2500 件以上あること ・ カスタマイズ可能なダッシュボード機能を有し、特定の業界や国を指定することで、関連するサイバー攻撃者グループ、攻撃キャンペーン、マルウェア名、脆弱性の情報を表示できること ・ 生成 AI を用いた対話的なやり取りができ、レポートの要約や脅威情報の解説ができること 		
9	<p>【管理機能】</p> <p>(11) 利用者毎にユーザ ID を付与できること</p> <p>(12) 二要素認証によるログインに対応していること</p> <p>(13) 利用者毎に API 利用上限量やアクセス権を設定できること</p>		
10	<p>【第三者機関評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス提供元について、第三者機関（Gartner や Forrester Wave など）から、下記の分野においてリーダーと評価されている、または評価された実績があること <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部脅威インテリジェンス分野におけるリーダー ・ ワールドワイドインシデントレスポンス 		

	仕様書の要件	詳細内容	適合
	スサービス分野におけるリーダー ・サイバーセキュリティ コンサルティ ングサービス分野におけるリーダー ・エンタープライズ SIEM 分野における リーダー ・データセキュリティ プラットフォー ム分野におけるリーダー ・クラウド AI デベロッパー サービス におけるリーダー ・エンタープライズデータの保護におけ るリーダー		

(注1) 適合欄には、仕様書の要件に適合している場合は「○」、不適合の場合は「×」を記載すること。

(注2) 詳細内容欄には、適合の具体的な内容を記載すること。記載内容を証明するもの（資格を証する書面、体制図等）を添付し、当該資料の該当箇所を詳細内容欄に記載すること。

(様式5)

入札書等受理票 (控)

受理番号 _____

件名：「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）」に関する
提出資料

【入札者記載欄】

提出年月日： 年 月 日
法人名：
所在地： 〒
担当者： 所属・役職名
氏名
TEL
E-Mail
FAX

【IPA担当者使用欄】

No.	提出書類	部数	有無	No.	提出書類	部数	有無
①	委任状（委任する場合）	1 通		②	入札書（封緘）	1 通	
③	資格審査結果通知書の写し※	1 通		④	適合証明書	1 通	
⑤	入札書等受理票	本通	—				

----- 切り取り -----

受理番号 _____

入札書等受理票

年 月 日

件 名 「標的型攻撃に係る脅威インテリジェンスのレポート提供サービスの調達（その3）」に関する
提出資料

法人名（入札者が記載）： _____

担当者名（入札者が記載）： _____ 殿

貴殿から提出された入札書等を受理しました。

独立行政法人情報処理推進機構 セキュリティセンター 対処調整部
担当者名： _____ ⑩